

✎ 恩 師 を 訪 ね て — 第 1 回 —

野村 秀明 先生



教科 世界史

昭和53年～平成元年 白石高校 勤務
その後、行政(指導主事)
札幌拓北高校 教頭
美幌高校 校長
釧路湖陵高校 校長
現在、私立札幌創成高校に勤務



白鳳会ホームページの開設、誠におめでとうございます。そして、本年で創立35周年の佳節を迎えられるとのこと。是非同窓会の集いには出席したいと思っております。

白石高校での教員時代ほど上司、同僚、そして良き生徒に恵まれた日々はなかったのではないかと述懐し、心から感謝しております。若干33歳で着任し、第1期の3年3組を卒業させましたが、その彼らも50歳。正に光陰矢の如しですね。11年間の在職中、1期、5期、6期、9期の4回担任として卒業生を送り出しました。

この間、HR担任、教科担任としてのあり方や、学年や学校運営への関わり方などの基礎基本を教えていただきました。そのことが1つの自信となり、その後の私の教員生活のあり方を見直すきっかけとなり、そして、実際にその後の生き方の大きな支えとなりました。

今、私立の札幌創成高校に勤務していますが、白石高校時代にアルバム編集に携わった時の経験を生かし、部活動で活躍する生徒など、青春を謳歌している生徒の姿にレンズを向けております。「自分のためにも、将来の北海道や日本のためにも頑張ってもらいたい。」という期待と願いを込めてシャッターを切っています。これが教員として、私を育てくれた白石高校への恩返しと思っております。

卒業生の皆さんと久しぶりに会い、近況を語り合い、今を生きているからこそ見える課題や話題について語り合えるのも教師冥利に尽きると実感しています。

同窓の、同期の誼(よしみ)とは時空を超え、私利私欲を超えた人間の崇高な情念の発露です。「白鳳会」の益々のご発展を心からご祈念申し上げます。



— 第 2 回 — 恩 師 を 訪 ね て

流田 由美子 先生

養護教諭

昭和52年～昭和61年 白石高校 勤務



「白石高校に感謝」

私事ですが今年(平成21年度末)、札幌稲西高校を定年退職しました。恵庭南高校3年、札幌白石高校7年、札幌手稲高校12年、札幌稲西高校11年と努めさせていただきましたが、特に白石は当時27歳の私にとって、新しい学校づくりが実に新鮮で興味深く、その後の教員生活に大きな指針をいただきました。

マラソン大会で喘息の発作を起こしながら完走したA君、股関節形成不全でも可能な限り体育授業を受けたB子さん、試験になると体調不良になるC君、……。

皆さん元気ですか。今考えると、もう少し適切な助言があったと思いますが未熟だった自分に反省しきりです。

3年前、札幌稲西高校に札幌白石高校より鶴原先生と19期生の倉知先生(代替教諭として1年間在任)が赴任し、白石の風を運んでくれました。渋川君(現北広島高校教頭先生)の母校での活躍、退職後の池淵先生、米谷先生の部活動への強力なサポートなど諸先生の白石への思いが伝わってきました。そして、倉知先生のサッカー部顧問、3学年副担任としての熱心な教育活動。生徒と教員からたいへん信頼され、特に彼が手がけた卒業生に贈るビデオ(卒業式最後に3年間の行事紹介)は1人1人の生徒が画面に映り素晴らしいもので、父母も感動し稲西の記憶に残る卒業式となりました。彼は連日徹夜で作成したそうです。鶴原先生は北海道高等聾学校に転出され、新たな環境でお元気に特別支援教育に取り組んでいます。

今や白石高校は文武両道で揺るぎない評価を得て、今後時代に即した新たな教育を益々期待されることでしょう。皆さんと共に白石で時を刻み育てられ感謝の気持ちで一杯です。

最後になりましたが同窓会会長の小松君、役員の皆様、ご多忙の中の同窓会の運営、本当にありがとうございます。

恩師を訪ねて — 第3回 —

山本 廣 先生



教科 英語

昭和52年～昭和58年 白石高校

(学級担任: 第1期生・第4期生)

その後

道立教育研究所

札幌西高校 教頭

道教育庁企画管理部企画室(国際交流担当主査)

女満別高校 校長

札幌丘珠高校 校長

勤務



定年退職後 私立札幌創成高校 教諭
北海道工業大学 教授

「白石高校」の名に接すると、形容しがたい複雑な感情がこみ上げてきます。懐かしさよりもより苦しさ、うれしさ、悲しさ、恨み、等々がない交ぜになって湧いてきます。同時に生徒たちや関係者の顔が浮かんできます。白石高校勤務の6年間は、私の人生では何十年分にも匹敵する中身の濃いものでした。

細川初代校長先生の「新しくたくましい学校を創る」熱意のもと私たち教師も一丸となって奮闘しました。1期生にもその熱意を共有して頑張ってもらいたい、きつい要求をしました。4期生に対しても同じように発破をかけていました。生徒はつらい思いをしたでしょう。しかし、つらい思いをしたのは生徒だけでなく、私たち教師も相当無理をして頑張っていました。個人的な理念や心情を押さえなければならぬことも多々ありました。まあ、白石高校の思い出を語れば原稿用紙何百枚にもなるでしょう。私としては実にいろいろとありましたから、白石高校教員OBの集まりでは、しばらく話の種にされていました。



白石高校での苦労話を2つだけ打ち明けると、1期生のコートの色と生徒会設立があります。①創立1年目、コートの色をベージュと決めましたが、ベージュといってもいろいろなグレードがあり、限りなく黄色に近いものがあるとわかりました。黄色は派手な色ということで禁止にしていました。担任の先生は判断に苦しみ微妙な判定は私のところに回してくるようになりました。色というものの難しさに、こりこりでした。②生徒会は2年目半ばには設立する予定でしたが、丸1年かかってしまいました。毎日、陽が暮れるまで話し合い、その後、もみじ台、真駒内へと女子の設立委員を車で送りました。3年目によく初代会長・八島隆志くんのもと生徒会は船出しました。今でも生徒会活動が順調に、活発に行われていることを願っています。

今年は創立35周年、私が転出してからも4半世紀以上が過ぎました。校庭のまわりに植えた木々も鬱蒼としていることでしょう。でも、「ふるさとは遠きにありて想うもの」とか、私の心の中の白石高校を大事にしたいと思っています。

— 第 4 回 — 恩 師 を 訪 ね て

大野 紘臣 先生



教科 保健体育

昭和52年1月16日から白石高校開校事務取扱

昭和53年～昭和58年まで計6年3ヶ月勤務

その後 国立大雪青年の家

遠軽家政高校 教頭

遠軽郁凌高校 教頭

札幌東豊高校 教頭

妹背牛商業高校 校長

釧路東高校 校長

札幌真栄高校 校長

妹背牛町教育委員会 教育長

平成23年3月末まで尾崎商事札幌顧問



白鳳会会長や役員からの原稿依頼ということで当時大変に学校行事等にご協力・努力頂いたことももあり、断片的であるが、いくつかと想いなおした。

◎昭和52年1月15日

前任校である札幌北陵高校軟式庭球部を引率し、全道中・高選抜大会に。同部男子2年生ペアが優勝。札幌北陵高校校長宅に優勝杯で祝酒を。帰り際「明日、10時に教育庁で辞令を受けるように」との指示。

◎辞令の交付

昭和52年1月16日道教育長より、開校準備のため、辞令の交付。高柳清先生、亀山省吾先生と共に。残念ながら両氏とも定年退職後逝去され、氏の多大なる努力、ご指導に感謝するとともに、心からご冥福をお祈りし、その想いを大切にする日々。

◎白石高校の6年間

6年間で一度も担任の機会がなく、大雪青年の家での宿泊研修、2年時からの見学旅行は毎年の参加で各年代の思い出事も多い。また、自転車通学生に交通事故防止対策として、ヘルメットの着用をお願いした。地域から「銀輪隊」と興味ある視線で、耐えて通学させたことも思い出。

◎部活動(バスケット部)

本格的に目的を決定し練習に入ったのは1期生の冬休みから。札幌静修女子高校バスケット部と一緒に練習に、同部の小澤年博監督(当時全国ベスト8)の指導を冬休み中毎日受ける。松尾泰之、小田島寛忠、浦崎章、亀谷範明、加藤孝一、北野孝の中学校の猛者(モサ)連中も女子に負け、指導の厳しさに声はなし。本物の部活動の意義も理解した時か。また、初代主将・松尾泰之(現在はアメリカに在住)は、練習の合間を見て病気の父親を介護する姿、4期生女子の本田(上野)美智枝は、1歳にもならない弟の面倒を見、夏休み・冬休みには、その弟を背負い練習に参加する姿は「優しく」、今も眼に残る。

◎現状とこれから

36歳で白石高校に関わり42歳まで。早いもので71歳となる。この3月末に仕事を離れ自由人に。今まで犠牲にしてきた事柄を拾い直しており、寿命の中で実践したいと考え中計画の途中である。例とすれば、1年350日以上練習した仲間との再会や、2～3日連続してのオホーツク海での船釣り等…。



— 第 5 回 — 恩 師 を 訪 ね て

武田 政司 先生



教 科 国 語
部活動 女子バレーボール部

昭和63年～平成11年 白石高校 勤務
平成11年～札幌南高校(定時制)



創立35周年おめでとうございます。「恩師」と呼ばれるほどの実績ありませんが、1期生の
渋川教頭先生からの強い要請があったので、恥ずかしながら投稿いたしました。

今から24年前、まだ28歳の春に最北の地(稚内商工高校)から赴任し、大きな職員室
に多くの諸先生方(みなさん教頭先生に見えました…)が鎮座され、相当なカルチャーショックを
感じたことが思い出されます。また、生徒諸君の
ほとんどが礼儀正しく、言葉遣いもしっかりしており、
逆にとまどったこともありました。

それから11年間、11期生(池淵主任)・14期
生(中澤主任)・18期生(野村主任)・21期生
(中澤主任)の担任として、また、女子バレーボ
ール部の監督として多くのすてきな少年少女たちと
邂逅できたことに感謝しております。

日本語の教師でありながら、ガリクソン(元ジャ
イアンツ投手)・西アジアの人などという異国の渾名をいただき、多忙でしたが誠に有意義で
楽しい日々でした。生徒も教師もみんなが切磋琢磨する風潮で、まさに「創造・自主・友愛」
の旗印、勉強や部活動や行事に真剣に取り組む学校だったことが思い出されます。

赴任早々、カルチャーショックで1週間ほどお休みをいただき、復帰後最初のホームル
ームで拍手をもって迎え入れてくれた優しい11期。雨の中、踊りまくって仮装行列の総合優勝し
てしまった14期…。「優勝したら『武蔵』のラーメン！」と宣言したら本当に優勝してしまい、あ
たふたしました(あの当時の私のお小遣い1万5千円…。保護者の皆さんにカンパをいただき
ました。ありがとうございました。)。みんな仲良く和気藹々だった18期生。私の離任式で胸上
げをしてくれた21期生…。あの時は涙がちよちょぎれました。みんな思い出深い仲間たちです。



現在も白石高校の卒業生とは仲良くさせていただいて
います。毎年、真夏の土曜日に実施される女子バレー
ボールOG会は15年以上も続いており、釣りの師匠で我
が家の補修保全をお任せする14期生のH夫妻、一時
同僚でもあった19期生のK君、同じ仕事に就いた小生
意気な21期のK君など、みんな私の教え子というより愉
快な仲間たちという気持ちです。みんなこれからもよろし
くね。



同窓会実施にあたり、粉骨砕身頑張ってくれている同
窓会会長の小松さんをはじめとする幹事のみなさん、鈴木
君、工藤君ありがとうございます。